

# HOSEI

Communication Magazine

10  
2022

富士見ゲート  
FUJIMI GATE

2021 AWARD

Introduction

# 2021年度の 研究・教育活動に対する 受賞・表彰者の紹介

本学には、学会などで受賞し、表彰された教員の方々が数多く在籍しています。  
ここでは、2021年度に受賞・表彰された方々と受賞内容をご紹介します。



## 多数の受賞成果と それを生み出した土壌を慶賀して



法政大学総長  
廣瀬 克哉  
Hirose Katsuya

皆様、この度の受賞、表彰おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

2021年度も、本学に所属する多数の研究者が賞を受け、表彰されました。総合大学としての本学の性格を反映し、文理にまたがる多様なテーマ、分野にまたがります。専任教員の単独研究の成果もあれば、大学院生や学部生も交えた研究室全体の取組が評価されたものも含まれます。ひとつの大学の中にあっても、分野によって研究の組織の仕方や、学生の関わりも多様であることを示しています。このように、テーマ、研究の組織の仕方、そして、受賞のあり方も含めて多様であることに、多数の学部、研究科、研究所を擁する本学で展開されている研究活動の幅広さが象徴されています。今年もまた、多数の研究成果がこのように社会的に評価されたことをよろこび、学内で広く共有したいと思います。

ところで、必ずしも良い成果を生むとは限らないのが、研究という活動本来の性質です。受賞、表彰される研究成果は、それだけが達成されているのではなく、少なくない数の失敗や期待外れの上に、評価される成果も生まれてくるものです。その意味では、ここに取りあげられている研究だけが価値をもつものではなく、それに至らなかった研究活動の積み重ねもまた本学の研究成果の不可欠な源泉であり、研究活動の豊かさを構成しているのだということも確認しておきたいと思います。法政大学が今後も引き続き、そういう幅広い研究活動が豊かに展開される場でありつづけたいと思います。

受賞・表彰者の皆様の、今後の更なるご活躍を期待しております。

# HOSEI EYE

法政の「いま」をお伝えします。

## 9月卒業学位記交付式



日本語と英語で司会を務めた金井鉄馬さん(社会学部4年)



廣瀬克哉総長は、新型コロナと戦った2年半を振り返りつつ「社会の転換を担っていく一人として、皆さんの前途が充実したものとなることを祈ります」と述べ、卒業生を激励した。

今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、式典は規模を縮小して開催され、式典の様子はオンラインでライブ配信されました。  
同日午後には、全ての授業を英語で行う学部および英語学位プログラムの新入生を対象とした2022年秋季入学式が行われました。  
9月10日(土)、市ヶ谷キャンパスのボアソナード・タワー26階のスカイホールで、午前中に2022年9月卒業学位記交付式が行われ、学部・大学院合わせて205人が本学から旅立ちました。



式典に参列して笑顔を見せる卒業生たちと新谷優グローバル教養学部長(右端)

※写真撮影時のみマスクを外しています

## 秋季入学式



日本語と英語で司会を務めた岩本美蘭さん(キャリアデザイン学部4年)



歓迎の辞をスピーチする在学生代表のLEE, Chae Weonさん(経営学部2年)

廣瀬総長は英語による式辞の中で、大学生活での仲間との出会いと交流の機会や深い学びの機会について紹介し、新入生を歓迎した。



入学の辞をスピーチする新入生代表の FERNANDES Richardさん(グローバル教養学部)

# 2022年 9月卒業学位記交付式 秋季入学式

## HOSEI 10 Contents

communication magazine 2022

- 02 HOSEI EYE 2022年9月卒業学位記交付式/秋季入学式
- 03 2021年度の研究・教育活動に対する受賞・表彰者の紹介

- 12 卒業生インタビュー  
「スポーツを通じて、暮らしに彩りをまちに活気を与えたい」  
一般社団法人 立川アスレティックFC代表理事 兼  
立川アスレティックFC選手 皆本 晃さん

- 14 ESSAY  
「ユーザの満足感を高めるデザインアプローチ」  
社会学部メディア社会学科 准教授 橋爪 絢子

- 16 HOSEI PHRONESIS VOL.47  
「江戸時代の文芸を多面的に探究」  
文学部日本文学科 教授 小林 ふみ子

- 18 MY CAMPUS, MY LIFE  
生命科学部環境応用化学科 生体化学工学研究室  
(山下明泰教授研究室) / 体連アルティメット部FOXYSS!!

- 20 Message 「オープンキャンパスという襷を受け継ぎ、そして未来へ」  
法学部法律学科3年 荻 隼人さん(市ヶ谷オープンキャンパススタッフ代表)

- 21 THE SCENE VOL.139 柔道部

- 22 後援会だより「支部総会・父母懇談会総括」ほか

- 26 HOSEI ミュージアム VOL.029  
「野上記念法政大学能楽研究所 創立70周年記念特別展示「危機と能楽」  
「お宝」のレプリカ初披露」

- 27 校友会だより

- 28 HOSEI TOPICS

- 30 2021年度自由を生き抜く実践知大賞 5

- 31 BOOKS

COVER 市ヶ谷キャンパス 撮影：平野太呂

市ヶ谷キャンパスのキャンパス中央広場にて。中央広場にはカツラやフイリヤプランなど、様々な木や花が植えられており、季節を感じられる明るい雰囲気です。



経営学部経営学科  
佐野 嘉秀 教授  
Sano Yoshihide

第36回沖永賞／労働問題リサーチセンター  
著書「英国の人事管理・日本の人事管理：日英百貨店の仕事と雇用システム」

日本とイギリスの企業間の比較研究は、これまでも双方の人事管理や労使関係の個性をとらえ、先進諸国の人事管理・労使関係（雇用システム）が互いに似かよったものになるか（「収斂」）を考えるうえで重要な事実発見を提供してきました。こうした研究蓄積をふまえ、本書では日英の百貨店でのフィールドワークから、日英の人事管理の体系が互いの個性を保っていることを明らかにしています。その基盤となる、賃金と仕事の配分ルールは「賃金と仕事をどう配分すべきか」という労使の公正観に支えられており、その変化が雇用システムの「収斂」と「多様性」の行方を左右すると考えています。



国際文化学部国際文化学科  
中澤 史 教授  
Nakazawa Tadashi

第70回日本スポーツ賞  
競技団体別最優秀賞

今回の受賞は日本男子サッカー（サッカー、フットサル、ビーチサッカー）のトップカテゴリーでワールドカップ初の決勝進出を果たし、銀メダルを獲得したビーチサッカー日本代表チームの実績が評価されたものです。新チーム発足と同時にメンタルコーチに就任し、2021年8月の「FIFAビーチサッカーワールドカップロシア2021」が閉幕するまで、日本代表チームの心理サポートを行いました。監督からの要望に応じて選手の競技力向上やメンタルヘルスの改善に取り組み、結果を残せたことをうれしく思っています。



人間環境学部人間環境学科  
下村 恭民 名誉教授  
Shimomura Yasutami

第25回国際開発研究 大来賞  
著書「日本型開発協力の形成 —政策史1・1980年代までシリーズ「日本の開発協力史を問いなおす」1」

「日本型開発協力」の中核は、ODAによるインフラ建設と民間部門の直接投資（特に途上国での工場建設）の組み合わせで輸出工業化を支援したことにより、イニシアティブが受入国側にあったことも特徴的です。アジアの多くの途上国が、このアプローチを活用して輸出工業化を推進し、経済の自立と援助依存からの「卒業」を実現しました。日本の開発協力の軌跡を追うと、戦後日本と国際社会との関わりが鮮明に浮かび上がります。その意味で本書は、戦後日本の肖像画を描く一作業ともいえるでしょう。



人間環境学部人間環境学科  
長谷川 直哉 教授  
Hasegawa Naoya



人間環境学部人間環境学科  
竹原 正篤 准教授  
Takehara Masaatsu

2020年度環境経営学会 学会賞（学術貢献賞）  
著書「Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG」

本書は、法政大学イノベーション・マネジメント研究センターの「企業家史研究会」の活動から、特に近年注力してきたサステナブル経営の先駆者にスポットを当てた研究成果です。主に戦前期（第二次世界大戦以前）に、現代企業に求められているサステナブル経営を先取りして実践した13人の企業家の経営哲学・手法を分析し現代的な意義を考察しています。英語で論文化した後に海外の出版社から発刊し、日本企業のサステナブル経営の源泉を海外に広く発信したこと、ESGやSDGsの視点から論じた新規性などが高く評価されました。



人間環境学部人間環境学科  
松本 倫明 教授  
Matsumoto Tomoaki

第26回日本天文学会 欧文研究報告論文賞  
論文「The formation of massive molecular filaments and massive stars triggered by a magnetohydrodynamic shock wave」

本論文では、太陽の何十倍も質量が大きい恒星（大質量星）は、分子雲が衝突することにより形成されるというシナリオの妥当性を検証しています。高いダイナミックレンジを実現するために、適合格子細分化法（AMR法）とシンク粒子法という高度な数値計算技術を投入して、星形成で重要な役割を果たす磁場と乱流の効果も取り入れた数値シミュレーションを用いて追跡しました。その結果、分子雲が衝突した領域に大質量星が形成し、さらに分子雲の特徴的な構造であるフィラメント状の構造が自然に再現され、本シミュレーションが現実的であることを示すことができました。



文学部地理学科  
前杵 英明 教授  
Maemoku Hideaki

2021年度日本地震学会 論文賞  
論文「1872年浜田地震による石見量ヶ浦の隆起」

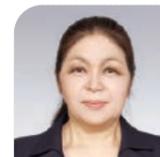
1872（明治5）年の浜田地震は、日本の測器を用いた地震観測開始前に発生したM7.1の地震です。地元住民への聞き取り調査による地震や被害の報告には、震源断層や地殻変動に関して不明な点も残っていました。本論文では、生物遺骸群集の分布高度と年代測定結果を詳細にまとめ、高精度な地形データを加えて検討することで、浜田地震の地殻変動に関して統一した解釈を新たに提案しています。地形・地質学的データの精度向上を図りながら、歴史的見地との総合的な解釈を進めた点が研究分野の模範として評価されました。



経済学部国際経済学科  
池上 宗信 教授  
Ikegami Munenobu

AAEA International Section Best Publication 2020  
論文「Can insurance alter poverty dynamics and reduce the cost of social protection in developing countries?」

本論文では「貧困の罠（低所得層は教育水準も低く、所得を増やしづらいという悪循環）」の存在する経済で、生産的資産へのインデックス型保険がもたらす貧困と社会保障費用への効果を数値シミュレーションを用いて分析しています。インデックス型保険は便益をもたらしますが、ベース・リスクが存在するため、貧困の罠に陥る危険性のある一部の層からは避けられやすくなります。保険料への公的補助を行う政策は、家計の保険需要を喚起し、経済全体の貧困と社会保障費用を抑制できる、有力な財政政策であることが明らかになりました。



社会学部メディア社会学科  
越部 清美 准教授  
（越部ゼミナール）  
Koshiabe Kiyomi

2021年度町田市  
学校支援ボランティア感謝状

ゼミでは「身体文化」や「非言語コミュニケーション」をテーマに研究を進めています。ゼミ生が中心になってワークショッププログラムを企画・実践することで、学生たちの能力と創造力、チームワークを育ててきました。このたび、長年にわたる町田市内の小学校の学習支援や学生との交流活動に対して町田市教育委員会から「2021年度町田市学校支援ボランティア感謝状」をいただきました。これからも、より充実した内容を提供し、より豊かな交流につながることができるよう努めてまいります。



社会学部メディア社会学科  
橋爪 絢子 准教授  
Hashizume Ayako

2021年日本感性工学会 著作賞  
著書「JIS Z 8530:2021『人間工学—人とシステムとのインタラクション—インタラクティブシステムの人間中心設計』（対象著作の原案作成委員長として受賞）」

人間中心設計とは、システムの利用に焦点を当て、インタラクティブシステムをより使いやすくしてユーザに満足感を与えることを目的とする、システムの設計と開発へのアプローチです。受賞対象となった著作『JIS Z 8530:2021』は国際標準規格であるISO 9241-210: 2019を国内情勢に合わせる形で翻訳した日本の産業標準化の規格です。国家文書のひとつであるJIS規格の特性を考慮して、なるべく平易な表現にするために高校生も含めて可読性を検討したことなどが評価されました。



社会学部メディア社会学科  
別府 三奈子 教授  
（別府研究室）  
Beppu Minako

第41回（2021年度）「地方の時代」映像祭  
市民・学生・自治体部門 優秀賞  
記録映画「ルソンの祈り〜順子ちゃんの戦場をたどって」

本作品は、太平洋戦争末期に一人娘を餓死で失った、ある民間邦人女性の半生の足跡を辿った40分の記録映画です。2学年4年間にわたるゼミの共同研究の中で制作しました。多摩キャンパスにある戦没学徒兵の石碑と、故・阿利莫二元総長の体験記『ルソン島—死の谷』がきっかけとなりました。大量の文献調査を踏まえ、フィリピン・ルソン島北部山岳地帯、長崎県佐世保、大阪、宮崎などを歩き、戦争末期を知る人々への質的調査を続けました。「戦争は弱いものに犠牲を強いる」。この当事者の語りの意味を、重層的な社会調査の手法で描いた点に、望外の高評価をいただきました。



情報科学部コンピュータ科学科  
廣津 登志夫 教授  
Hirotsu Toshio

2021年度情報処理学会  
コンピュータサイエンス領域功績賞

2004年度から情報処理学会システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会の幹事、そして主査を務めた他、論文誌「コンピューティングシステム (ACS)」の編集委員、編集副委員長、編集委員長と継続的に務めるなど、研究会の運営に貢献したことで受賞に至りました。

とりわけ、質の高い査読プロセスを実現するために ACS が用いている独自開発の査読システムを、2008年から現在に至るまで継続的に管理運用するという責にあたり、長年にわたって研究会活動を支えていることが高く評価されました。



デザイン工学部建築学科  
赤松 佳珠子 教授  
Akamatsu Kazuko

- ①第1回JIA東北建築大賞2020
- ②2021年度グッドデザイン賞 グッドデザイン・ベスト100
- ③第1回日本建築士会連合会 建築作品賞 (奨励賞)
- ④日事連建築賞 (奨励賞)
- ⑤第62回日本建設業連合会 BCS賞
- ⑥第13回JIA中国建築大賞2021 大賞 (一般建築部門)
- ①④山元町役場
- ② ROPPONGI TERRACE
- ③⑥アストラムライン新白鳥駅 ⑤渋谷ストリーム

建築家として携わった4つの建築作品が高い評価を受け、6賞を受賞しました。各賞で評価された点は次の通りです。

①④「東日本大震災からの復興への思いが強く感じられ、山元町の景観と環境に根ざした優れた建築」②「これからの時代の働き・生きる場の在り方を指し示す建築」③⑥「創意と工夫に満ち、地域の建築への広がり期待される建築作品」「作者の卓越した造形力が風景の在り方に一石を投じた建築」⑤「人々の五感、六感に働きかける気配によってまちの記憶を再構成しながら継承させることに成功している」



デザイン工学部建築学科  
川久保 俊 教授  
Kawakubo Shun

- ①令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞
- ②第35回人工知能学会全国大会 優秀賞 (一般セッション口頭発表部門)
- ①業績「全国の自治体の持続可能性評価に関する研究」
- ②「BERT モデルを用いた SDGs に関するマルチラベル文書分類器の構築とマッチングシステムの開発」

①本研究では全国の自治体の持続可能性を環境／社会／経済の三つの側面から総合的に評価。全国の自治体に関する大規模なデータベースを整備し、地理情報システムと連携した結果出力プログラムまでを一体的に開発しました。成果の一部は「LOCAL SDGs PLATFORM」上で公開中です。

② SDGs の成功事例を共有する重要性に着目し、活動事例や課題を SDGs に写像する分類器を構築。SDGs 間の連環関係を可視化することで、地域の課題と解決に結び付く取り組み事例とのマッチングシステム開発を発表しました。



デザイン工学部建築学科  
小堀 哲夫 教授  
Kobori Tetsuo

- ① 2021年度グッドデザイン賞 グッドデザイン・ベスト100
- ②第13回JIA中国建築大賞2021 優秀賞 (一般建築部門)
- ①②梅光学院大学「The Learning Station CROSSLIGHT」

受賞対象となった施設は、大小さまざまな間仕切りのないセミオープンな空間が斜めに連なる新しいスタイルの校舎です。「場が学びを変える」をコンセプトとして、あらゆるところが学びの場となるようにデザインしています。

例えば、廊下と教室の概念をなくし、1階を固定席がないフリーアドレスオフィスとしたのも学生と教員や職員の交流を活性化するための仕掛けの一つです。その結果「アクティブ・ラーニングなど新しい方向性を掲げる大学の理念を空間化した建築」などと評されて、二つの受賞に至りました。



デザイン工学部建築学科  
山道 拓人 講師  
Sando Takuto

- ① 2021年度グッドデザイン賞 グッドデザイン・ベスト100
- ②③ 2021年度グッドデザイン賞
- ④日本メンズファッション協会 ベストデビュタント賞 (空間・インテリアデザイン部門)
- ①商店街「ポーナストラック」
- ②建築「押上のビル PLAT295」
- ③集合住宅の一棟まるごとリノベーション「リノア北赤羽」
- ④業績「将来を期待される新人クリエイター&アーティスト達の中から選出」

今回受賞した3建築物が評価された点は次の通りです。  
①「下北沢の街並みを引き継ぐ新築の商店街で、個人が小商いを始めやすい環境を生み出している」②「ハウスメーカーの構法ルールに則りながらも建築家が可能性を拡張し、新たなプロトタイプとなるような職住一体の建築を実現」③「コモンスペースを暮らしの延長として使える場所に設え、住民と地域の人々が暮らしのスキルを共有できる施設が実現している」

これらの活動により、「将来を期待されるクリエイターの一人」と評され、④の受賞に至りました。



現代福祉学部福祉コミュニティ学科  
佐野 竜平 教授  
Sano Ryuhei

障害とエンパワメント賞／  
パキスタン・イスラム共和国シンド州政府

2008年以来、パキスタンを何度も訪れて、パキスタンに生きる多くの障害者や家族に向けた活動を展開。障害者とともに制作したマンガやドキュメンタリー動画を通じて、障害者にやさしいまちづくりに取り組みました。コロナ禍に入ってから、着物やゴミを利用した学生主体の手作り透明マスク寄贈など、ユニークな連携活動が続きました。

こうしたさまざまな国際協力活動はパキスタン・シンド州政府から「既成概念にとらわれない素晴らしいイノベーター」と高く評価され、今回の受賞に至りました。



現代福祉学部福祉コミュニティ学科  
宮城 孝 教授  
Miyashiro Takashi

- ①2020年度日本不動産学会 著作賞 (学術部門)
- ②2021年度都市住宅学会 著作賞
- ①②共著「仮設住宅 その10年—陸前高田における被災者の暮らし—」

本書は、東日本大震災において岩手県で最も甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市を対象に、10年間に渡る応急仮設住宅における被災者の暮らしを実証的かつ学際的に研究した学術書です。

建築学、都市計画学、地域福祉学、社会学、公衆衛生学、防災学、芸術学などの多領域から、被災者の暮らしに焦点を当て、仮設住宅や被災地の復旧・復興過程を、包括的に描き出した内容となっています。

今回の受賞により、被災地の復興過程における学際的な研究の在り方について評価していただいたとすれば、望外の喜びです。



GIS (グローバル教養学部)  
グローバル教養学科  
新谷 優 教授  
Niija Yu

第16回 国際賞 (奨励賞)／  
日本心理学会

失敗に対する自尊心の脆弱性や、大人の甘えが対人関係に与える影響、他者に対する思いやりと自己の幸福感の関係などについて、多様な研究方法を用いて明らかにし、国際誌に多くの論文を発表したことが評価されました。

今回の受賞で、私の研究が国際的に貢献できたこと、評価いただけたことが GIS の教員として何よりうれしく思います。奨励賞は、「もっと励みなさい」という賞だと理解しています。日本の心理学の国際化に向けて、さらに貢献できるよう励みたいと思います。



GIS (グローバル教養学部)  
グローバル教養学科  
平森 大規 助教  
Hiramori Daiki

XPLANE CAFÉ 5-MINUTE  
CHALLENGE 優秀賞  
報告名「LGBT とお金—日本の性的マイノリティの収入は高い?低い?」

ジェンダーに基づく社会経済的不平等は、国内外を問わず多くの知見が蓄積されています。しかし、性的指向・性自認のあり方に基づく社会経済的不平等に関する知見については限られています。

本研究では、性的マイノリティ (LGBT) が社会経済的不平等とどう関わっているのかを探るべく、大阪市で実施された無作為抽出調査「大阪市民調査」を用いて性的指向・性自認のあり方と賃金の関連について調べ、LGBT の賃金傾向を統計的に分析。その結果を5分間の制限時間で分かりやすく発表することが評価されました。



GIS (グローバル教養学部)  
グローバル教養学科  
玄 幼栄 助教  
Hyun Youyung

2021 Best Paper Award／  
KMIS International conference  
論文「When My OriHime Went to Work : Representational Fidelities of a Tele-Operated Robot」

With an increasing need of contactless service after the outbreak of COVID-19 pandemic, a tele-operated robot started being deployed in a variety of service contexts. Capturing this phenomenon, the objective of this study is, by taking an operator's perspective, to identify what aspects of a tele-operated robot can allow elderly and disabled people to participate in social activities and explore how these aspects can enhance their work engagement and performance. The model will be examined by online survey targeting 40 disabled people who are currently working as staff via a tele-operated robot in the avatar robot café in Tokyo, Japan.



デザイン工学部  
システムデザイン学科  
**安積 伸** 教授  
Azumi Shin

**2021年度グッドデザイン賞**  
ハイテーブル・テーブル・ベンチ「フロウラウンジ シンボルツリーファニチャー」

受賞作である「フロウラウンジ シンボルツリーファニチャー」は、1996年からロングセラーとなっているシリーズ「FlowLounge」の発展形として、新たにデザインを行ったものです。「人間は本能的に自然とのつながりを求める」という考えから、緑を蓄えたシンボルツリーを中心に、人が集える場を構想。多彩な用途に適合するよう、天板はハイテーブル・テーブル・ベンチと3段階に高さを変えられます。今日のオフィスで求められる「快適なコミュニケーションスペース」と「気軽に集中できる作業スペース」を同時に提供するデザインとなっています。



デザイン工学部  
システムデザイン学科  
**小林 尚登** 名誉教授  
Kobayashi Hisato

**計測自動制御学会名誉会員**

大学生時代からスタートして半世紀ほど、計測自動制御学会にお世話になっています。学会の活動、論文執筆や書籍出版など、数多くの思い出があります。

計測自動制御の分野は、工学分野の多くの物を対象とする横断型技術分野です。日本学術会議を通して、他の学会との横断的連携も図られてきました。この度名誉会員に推挙されたことは感慨深く、私の恩師(同名誉会員)がお祝いのメールを送ってくださったことが最もうれしく感じました。学術分野が継承・発展していくことを祈っております。



デザイン工学部システムデザイン学科  
**ソン ヨンア** 客員准教授  
Seong Young ah

**ナレッジイノベーションアワード2022 ナレッジキャピタル部門 準グランプリ**  
**インタラクティブ2022 第26回 情報処理学会シンポジウム インタラクティブ発表賞(一般)**  
①「身体から生えてくる柔らかい分身ロボット」(東京大学葛岡・雨宮・鳴海研究室、新山龍馬氏との共同受賞)  
②「花の開花の動きをメタファーとした人の気配伝達装置の基礎検討」(佐藤 康三 名誉教授との共同受賞)

①受賞作は、空気で膨らんで姿を現すウェアラブル分身ロボットです。内部の紐を制御することで動き、使わない時は薄く折り畳めます。新しい未来のコミュニケーションとして評価されました。  
②互いの活動の様子や雰囲気把握する要素として「気配」に着目。遠隔地にいる人々の気配を伝達する装置の開発を目指しています。その基礎検討として、花の動きで遠隔地からの気配を伝えられる可能性について調査し、報告しました。花の開花をメタファーとした気配伝達装置の美しい完成度と調査結果が評価されました。



デザイン工学部  
システムデザイン学科  
**田中 豊** 教授  
Tanaka Yutaka

**GFPS (Global Fluid Power Society) Best Paper Award**  
論文「Control of Air Bubble Content in Working Oil by Swirling Flow」

GFPS Best Paper Award は GFPS が特定した国際イベントや会議における査読付き論文から、論文の独創性、厳格さ、技術的内容やプレゼンテーションの質に基づき、国際的審査員団が審査を行い、最高の論文1件に与えられる最優秀論文賞です。

受賞論文は、作動流体(油)中に混在する気泡状態の空気量を精度良く制御調整するシステムのデザイン提案と実験による妥当性を確認するものです。手法の独創性や理論的な解析と実験による裏付けの結果が高く評価されました。



デザイン工学部システムデザイン学科  
**山田 泰之** 准教授  
Yamada Yasuyuki

**日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門 2021年度部門一般表彰(部門優秀論文表彰)**  
**第32回ザッカデザイン画コンペティション クツ部門 優秀賞**  
**若monoデザインコンペティション燕 vol.6 企業賞**  
①論文「蠕動運動型混合搬送機による固体推進連続製造の検討」  
②IN Boots  
③株式会社アベキ「生活の中で自然を感じられるインテリア」/ 作品名: Oku

①本研究は JAXA や民間企業との産学連帯の研究活動です。本論文では、蠕動運動型混合搬送装置における火薬混合の基礎的なパラメータの検討と、作成した火薬の燃焼試験を含めた実証試験の結果を報告しています。  
②革製の靴の美しさ、フィット感をリーズナブルに提供する方法として提案した作品です。布製靴のフィット感と革靴の独特の光沢や質感の両立を狙っています。  
③寄りかかるように本を置けるブックスタンドです。武骨で薄いスチールの貫通構造に木材を内包し、存在を強調させています。



デザイン工学部建築学科  
**下吹越 武人** 教授  
Shimohigoshi Taketo

**第1回日本建築士会連合会 建築作品賞(奨励賞)**  
**令和3年度港区景観街づくり賞**  
①「K2 house」  
②ホテル・店舗(複合商業施設)「ルネ麻布十番」

①は竣工して4年が経過し、住人として暮らしている住宅で、また一つ賞をいただくことができました。住宅のようなプライベート性の高い建築を社会的に共有することは難しく、受賞を通して成果を広く社会に発信できるのは、とても貴重な機会になります。  
②は都心部の建築がつくる景観形成について真正面から取り組んだプロジェクトでした。今回の受賞で、これまでの活動の成果が認められ光栄に思いますし、大きな励みとなりました。これからも都市と建築の良好な関係を追求していきたいと思えます。



デザイン工学部建築学科  
**朴 賛弼** 助手  
Park Chanpil

**2021年大韓建築学会 著作賞**  
**日本民俗建築学会 竹内芳太郎賞**  
**第6回武蔵野美術大学建築学科 長尾重武賞**  
①著書「ソウル清溪川再生—歴史と環境都市への挑戦—」  
②業績「民俗建築および町並み、農村集落などに関する研究論文や著書で学術研究の発展に寄与する優れた論文と業績を上げた」と評価されました。  
③著書「日本の風土と景観 WEST ZONE」  
「日本の風土と景観 EAST ZONE」

①著書『ソウル清溪川再生』はソウル中心部にある高速道路を撤去し、自然豊かな川に復元したという内容です。2003年から始まり、長年にわたって蓄積された研究成果をまとめた日本語、英語、韓国語版の3カ国の出版の業績を評価されました。今後の「日本橋再生」の参考になると思われます。  
②は民俗建築および町並み、農村集落などに関する研究論文や著書で学術研究の発展に寄与する優れた論文と業績を上げた」と評価されました。  
③の『日本の風土と景観 東・西編』韓国版2冊は、著者の真摯さと情熱の力作であり、日本への大きな関心が生み出した秀作と評価されました。



デザイン工学部都市環境デザイン工学科  
**今井 龍一** 教授  
Imai Ryuichi

**第4回日本オープンバージョン大賞(総務大臣賞)**  
**第34回日本道路会議表彰論文 優秀賞**  
**2021年土木学会 AI・データサイエンス特別賞**  
**CSIS DAYS 2021 優秀共同研究発表賞**  
①プロジェクト「携帯電話基地局データから生成される人口流動統計」  
②論文「人工知能を用いた汎用カメラによる24時間交通量調査技術の開発」  
③論文「コンクリート締固め位置のリアルタイム解析システムの開発と現場試行」  
④論文「鉄道交通障害情報の提供エリア分析」

①携帯電話ネットワークの運用データから人流データ(人口流動統計)を生成する手法を開発。有益性が評価され、受賞しました。  
②人工知能を用いて昼夜を問わずに計数可能な自動車交通量調査技術を開発しました。24時間365日の交通量常時観測も可能です。  
③動画像を活用したAI分析によってコンクリート工事の締固め箇所を定量的に把握できる管理システムを開発しました。  
④交通ビッグデータと既存の統計調査を組み合わせ、交通障害に応じた情報の提供エリアを分析、選定する手法を開発しました。



デザイン工学部  
都市環境デザイン工学科  
**山本 佳士** 教授  
Yamamoto Yoshihito

**2021年土木学会 AI・データサイエンス 奨励賞**  
論文「GAN および FDTD 法を用いたレーダ画像からの内部欠陥推定手法の高度化に関する検討」

経年劣化したコンクリート構造物の残存する耐震性能などを正確に評価するためには、目視点検では分からない、構造物内部のひび割れの位置や長さなどの幾何情報を、精度良く効率的に取得することが必要です。  
本研究では、深層学習の一種である敵対的生成ネットワーク(GAN)を用いて、レーダ画像からコンクリート構造物内部のひび割れを可視化する手法を提案するとともに、有限時間領域差分法(FDTD法)を用いたシミュレーションにより有効な学習データを低コストで大量に生成する方法を提案しています。将来性が評価され受賞しました。



デザイン工学部  
都市環境デザイン工学科  
**渡邊 竜一** 兼任講師  
Watanabe Ryuichi

**国土交通省地域づくり表彰 審査会特別賞**  
**NPO 活動奨励賞**  
長崎県民ボランティア振興基金  
①② DEJIMA BASE (長崎県長崎市)

2050年までに島完全復元を目指している長崎県長崎市の出島復元整備事業の一環で、人工島である出島と長崎市内をつなぐ「出島表門橋」を設計しました。橋長38.5m、幅員4.4m、主径間33m、側径間5.2mの2径間鋼連続版桁橋です。遺構保護および景観、治水の観点から、中島川に橋脚を設置せず、出島側の反力をいかに抑えるかを構造設計の主題としています。  
その結果、対岸の江戸町側に2つの支点を設け、てこの原理のような仕組みで力を分散させた、ユニークな設計の橋になっています。



理工学部応用情報工学科  
和田 幸一 教授  
Wada Koichi

APDCM2021 Best Paper Award  
論文『Autonomous Mobile Robots: Refining the Computational Landscape』

受賞論文は、自律分散ロボット群の計算能力と、ロボットの持つメモリとロボット間の通信能力との関係を明らかにしたものです。

ロボットの動作形態によって、同期度を全てのロボットが同期的に動作する(FSYNCH)、同期はとられるが全てのロボットは動作しない(SSYNCH)、同期はとられずに全てのロボットが非同期に動作する(ASYNCH)の3パターンに分類。ライト搭載の有無や認識性などで分類したロボットのモデルと、同期度の組合せに関して、ロボットの計算能力がどのようになるかを明らかにしています。



生命科学部生命機能学科  
山本 兼由 教授  
Yamamoto Kaneyoshi

2021年度「貴金属に関わる研究助成金」  
奨励賞 / 田中貴金属記念財団

バイオプロセスを用いた第三世代金属資源化技術を開発し、新しい金属資源の創出研究に取り組んでいます。これまでの研究で新たなゲノム編集技術 HoSeI (Homologous Sequence Integration) 法を開発しました。

HoSeI法は、複数箇所のゲノム編集を簡便に行える特徴があり、ppmオーダーのパラジウム(触媒などで利用される希少金属材料)を含有できるゲノム編集大腸菌を創出しました。これを用いて、未利用な産業廃液や天然環境で増殖させた金属蓄積ゲノム編集大腸菌をバイオ細胞鉱とする新しい金属資源化を提案しています。



生命科学部応用植物科学科  
廣岡 裕吏 准教授  
Hirooka Yuuri



生命科学部応用植物科学科  
石川 成寿 教授  
Ishikawa Seiju

2021年度日本菌学会 平塚賞

2010年以降、関東の複数地域で越冬したハクウンボクの葉および葉柄に、菌類の一種であるグノモニア様菌類の子嚢殻が多数観察されました。顕微鏡を用いた詳細な形態と培地における培養性状を観察し、さらに遺伝子領域を用いた分子系統解析を行ったところ、グノモニア科の新属新種の菌であることが分かりました。発見に伴い、新たに *Tenuignomonina styracis* Minosh., D.M. Walker & Hirooka と命名しました。*T. styracis* はハクウンボクに対して弱い病原性を持ち、秋のハクウンボクの落葉を早める可能性も示唆されています。



理工学部電気電子工学科  
伊藤 一之 教授  
Ito Kazuyuki

日本知能情報ファジィ学会 貢献賞

SCIS & ISIS2020 の運営における、Program Committee Vice Chairとしての貢献に対して、貢献賞をいただきました。

2020年は八丈島での開催を目指して準備を進めてきたものの、コロナ禍の影響を受け、急遽オンラインでの開催となりました。国際会議をオンラインで開催するという事態は初めての経験でしたが皆さまのご協力のもと、無事に開催することができました。

現在は日本知能情報ファジィ学会の学会誌編集委員長を務め、学会のさらなる発展に向けて尽力しています。



理工学部電気電子工学科  
佐々木 秀徳 専任講師  
Sasaki Hidenori

日本AEM学会 MAGDA2021  
優秀講演論文賞

論文『分布データを活用した深層学習のモーメント特性推定精度向上に関する検討』

電気機器のさまざまな特性を考慮しつつ、設計を自動化することを目標にビッグデータ・AIを用いた設計技術に関する研究に取り組んでいます。

本論文では、電磁界解析手法の代替手法として機械学習を用いた場合に推定精度や汎化性能が良好なモデルの構築手法を提案しています。この手法では一度モデルを構築すれば、未学習形状の特性推定にも適用できる可能性があり、計算コストの削減に大きく寄与すると考えています。

今後も自動設計手法の実現の観点からエネルギー問題の解決に向けた貢献をしていきます。



理工学部電気電子工学科  
中野 久松 名誉教授  
Nakano Hisamatsu

アンテナ・伝搬ソサイエティ 栄誉表彰 / IEEE

1991年から2020年までの約30年にわたり、IEEE アンテナ・伝播ソサイエティ (APS) 学術雑誌の編集に携わってきました。今回は最近6年間の副編集者としての功績を評価していただきました。

世界が直面する技術問題を探索し、解決策を有する研究者を探し出し、原稿執筆を依頼。完成した原稿は適時性 (timeliness) と読みやすさ (readability) に注視して質的向上を図り、公刊 (印刷) へと導いてきました。

これまで協力いただいた世界中の執筆者に深謝し、任務を終えたいと思います。



理工学部電気電子工学科  
山内 潤治 教授  
Yamauchi Junji

エレクトロニクスソサイエティ フェロー賞 / 電子情報通信学会

業績『差分法に基づく電磁波解析法の研究と光デバイス設計への応用』

今回の受賞では、電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティの「A: 工学的・科学的先駆者」カテゴリーから選定され、フェロー称号を授与されました。

これまでの功績としては、論文誌で63件公表。全国大会や研究会での講演は11回。全国大会での発表総数は1250件、研究会への参加は195件を超えます。海外では、米国光学学会 (OSA) などで8回の招待講演を行いました。その他、特許出願は52件におよびます。

数値解法の啓蒙、普及にも努め、一般技術者、学生向けのセミナー講師も5回務めています。



理工学部応用情報工学科  
尾川 浩一 教授  
Ogawa Koichi

日本医用画像工学会 功労賞

1981年より学会員となり、以後41年間にわたって、さまざまな活動に取り組んできました。

編集委員長として学会誌の編集業務に従事し、過去に刊行された全ての論文誌のPDF化やOCRによるドキュメント化に取り組んだ他、論文誌の充実にも尽力し、2012年には全777ページの『医用画像工学ハンドブック』を刊行に導きました。2016年からは学会長に就任し、その後4年間にわたり責任者として学会運営を行い、学会の法人化にも取り組みました。

これらの活動の数々が評価され、今回の受賞に至りました。

◆ 2021年度の受賞・表彰サイト ◆



2021年度の研究・教育活動に対する受賞・表彰者の情報は以下のサイトでより詳しい内容をご覧くださいことができます。

<https://www.hosei.ac.jp/info/article-20220910145353/>

◆ 教職員・学生・卒業生の受賞情報 ◆



教職員・学生・卒業生の受賞情報は、以下のサイトにも掲載されています。

<https://www.hosei.ac.jp/prize/>

◆ 法政の研究ブランド ◆



以下のサイトで法政ブランドの研究ストーリーをご覧くださいことができます。

[https://www.hosei.ac.jp/koho/07\\_kenkyu/](https://www.hosei.ac.jp/koho/07_kenkyu/)



HOSEI  
Graduate Interview  
**卒業生**  
インタビュー

※撮影時のみマスクを外し、安全に配慮して撮影しています。

## スポーツを通じて、暮らしに彩りを まちに活気を与えたい

一般社団法人 立川アスレティックFC代表理事 兼 立川アスレティックFC選手

### 皆本 晃さん

フットサルのFリーグで15年にわたって活躍し、日本代表としてFIFAフットサルワールドカップにも出場した皆本晃さん。2022年からクラブの経営にも携わるようになり、かつての夢や学生時代の学びが今につながっているのを感じていると言います。

このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体現している本学の卒業生を紹介していきます。

**選手兼経営者として  
新たなスタートを切る**

フットサルクラブの立川アスレティックFCで、平日の午前中は選手として練習をして、午後はクラブの代表理事として営業活動や管理業務をこなし、週末は試合に出場するという「二刀流」の日々を送っています。きっかけは、アリーナの規格変更があつて本拠地を移し、クラブの運営も新法人へ移管したことでした。将来は運営側にと考えていたので、代表理事への就任に迷いはありませんでしたが、それを機に引退するかどうかは相当悩みました。最終的に現役続行を断念したのは、代表理事が選手を兼任すれば、話題にも差別化にもなり、経営上プラスになると判断したからです。



「チームに必要とされている間は現役を続ける」という皆本さん

に現地入りするのが理想的ですが、場所や試合時間によっては当日入りでもそれほど支障はない。そんな選手目線での判断や慣例の見直しは、二刀流の私だからできることだと感じています。

**まちづくりに携わりたい  
公務員を目指して進学**

高校生の時に、将来はまちづくりに携われたいいなという思いがありまして。そこで、都市整備などを学んで公務員になろうと考えて、法政大学工学部（当時）に進学したのです。大学で学ぶからには、何か一つのことじつくり取り組みたいと思い、自分の興味というよりは、厳しい指導を受けられそうという理由で、溝淵利明教授のコンクリートを研究するゼミに入りました。砂・水・セメントをさまざまな配合で混ぜてコンクリート塊を作り、異なる環境に放置し、数日後にそれを壊して強度を分析するという毎

日でした。今、運営の方向性を探るときに、Aの次にBと全くやり方を変えるのではなく、Aのここを少し変える、次はあそこを変えてみるというアプローチを取れるのは、ゼミで論理的思考が身に付いたおかげかもしれません。

また、大学入学と同時に、当時工学部があつた小金井キャンパスに近い府中アスレティックFC（現在のクラブの前身）に入りました。高校まではサッカーをプレーしていましたが、コートが狭く、人数の少ないフットサルの方が自分に向いていると感じたからです。その予感的中し、同級生が就職活動をする頃にはフットサル選手になると決めていました。ちょうどFリーグが誕生した頃でしたが、思い描いていたのはその先の日本代表、そしてスペインのトップリーグです。

**スポーツでまちを盛り上げる  
ロールモデルはスペイン**

卒業後3年目にスペイン行きを敢行し、2年間スペインのリーグでプレーしました。娯楽のほとんどない、地方の小さな町で、フットサルの応援が人々の生活の一部になっているのを目の当たりにして、「こういう町っていいな」と心の底から思ったのです。

それが原体験となり、Fリーグに復帰してからは、選手としてプレーするだけでなく、フットサルを知ってもらおう、試合を見に来てもらうための話題づくりも意識するようになりました。

そしてクラブの経営を担うようになった今、スペインのロールモデルの実現に本格的に取り組んでいます。子どもがフットサル選手を夢見る、大人は応援を通じて仲間が増え、週末が楽しみに。そんなふうにクラブが人々の暮らしに彩りを添える存在となり、応援する人の輪が広がってまち全体が盛り上がりつつあります。そして、クラブに関わる人が増えれば、選手のセカンドキャリアの選択肢も広がる。そう信じて、まずは地元でクラブの存在を浸透させるため、種まきに奔走しています。もちろん、不安もあります。苦しいとき、自信がなくなつたときは、「なぜそれをやるのか」と自問自答しています。「まちやフットサルを盛り上げたい」という信念は揺るがないと確認できれば、困難を乗り越えるしかない」と踏みとどまれるからです。

**自分が取り組んだことは  
どこかでつながっていく**

大学で学んだことと全く関係のない道に進んだと思っていました。振り返ってみると、入学時の将来の夢やゼ

ミの実験、スペインでの経験などあらゆることが今につながっています。20代は先が見えず、迷うことも多いでしょう。そんな時は、目標に直結しているかどうかにとらわれず、目の前のことに一生懸命に取り組んでみてください。そのうち自分の中に根っこのようなものができて、それまでの経験をどこかで生かせるはずですよ。

私は、あと数年二刀流を続け、10年後には立川でプロスポーツクラブとしてのロールモデルを作り上げて、次のステップに進むつもりです。人生を懸けてきたフットサルを盛り上げられるなら、FリーグのCEOになるのも一つの選択肢ですし、別のまちでスポーツクラブを立ち上げるかもしれません。そのためにも、経営者としての実力を伸ばしていきたいです。

**Minamoto Akira**

1987年千葉県生まれ。2009年工学部都市環境デザイン工学科を卒業。在学中から府中アスレティックFCに所属し、2009年からFリーグでプレー。2012～2013年スペインのリーグでプレー。2021年FIFAワールドカップ リトアニアに出場。2022年3月一般社団法人立川アスレティックFCの代表理事に就任。



2011年、スペイン1部リーグのブルゴス・バソニアFCに移籍。写真は入団会見の様子



# ユーザの満足感を高める デザインアプローチ

社会学部メディア社会学科 准教授 橋爪 絢子

日常生活にあふれる  
さまざまな人工物

皆さんは普段、生活の中で、どのような「人工物」を、どのような目的で、どのように使っていますか？

人工物というのは、「自然物」と反対の概念で、人間がつくり出したもの全てを指し、ハードウェアやソフトウェア、アプリなどの製品も、人的サービスやウェブサービスなどのサービスも含まれます。大学も、教育というサービスを提供する、研究教育のための機関です。また、人工物を使う人のことを、「ユーザ」といいます。

例えば、皆さんが日常的に授業を受けたり、仕事をしたりする場面でも、パソコンやスマートフォン、タブレットなどの機器、そしてインターネットなどの人

工物は欠かせないものになってきていると思います。私たちの身の回りには、多様な人工物が満ちあふれていて、それらがなくいと私たちの日常生活は成り立たなくなってしまうのです。

私の研究では、そうした人工物について、どのような人が、いつ、何のために、どのように利用しているのかというユーザの利用経験の実態を把握しながら、どのようにデザイン（設計）をすれば、それを使うユーザがより良い状態になるのかを考えます。

通常、私たちは、人工物を何かの目的のために使いますが、その目的が達成されるのはもちろん、それを使うことで効率が上がったり、快適に過ごせたり、うれし、あるいは楽しいと思えたりすることでも満足感が得られます。そうしたユーザをよりポジティブな状態に導くた

めのデザインについて考えたり、デザインを問い直すことで、人工物とそのユーザとの関わりがどのように変わるのかを考えたりするのが私の研究です。

## 人工物のデザインの 2種類の方向性

人工物のデザインのアプローチには、2種類の方向性があります。シーズ指向的なアプローチとニーズ指向的なアプローチです。シーズ指向的なアプローチでは、技術開発を中心にした開発が行われます。新しい技術ができたから、それを使って何か製品やサービスを考えようというわけです。それとは反対に、ニーズ指向的なアプローチでは、対象の人工物を使うユーザのニーズを中心にして、ニーズを満たすためにどのようなものを開発し、それをどのようにデザインすれ

ば良いかを考えていきます。

後者のように、人工物を使うユーザを中心に据えたデザインアプローチを、「人間中心設計（ユーザ中心設計）」といいます。人間中心設計とは、ユーザのネガティブな経験をできるだけ少なくして、ポジティブな経験をできるだけ豊かにすることを目的とした、設計への取り組み方です。

## 使う人を中心に考える 人間中心設計

ニーズ指向的なデザインアプローチを設計プロセスに適用したのが、1999年に制定された国際標準化規格ISO 13407でした。この規格が1999年に提起された当初は、人工物の品質特性の一つであるユーザビリティを高めるために、プロセスアプローチを取り入れて、より良いものづくりをしようとしていました。ユーザビリティというのは、平易な表現でいうと「使い勝手」や「使いやすさ」のことです。この規格はISO 9241-210へと改訂され、2019年7月に再度内容が見直されました。

これを日本語に訳したものが、日本の国家規格JIS Z 8530「インタラクティブシステムの人間中心設計」です。このJIS規格では、人間中心設計を、「システムの利用に焦点を当て、人間の工学の知識と技法の適用によって、インタラクティブシステムをより使いやすくす

ることを目的とするシステムの設計と開発へのアプローチ」と定義しています。

「インタラクティブシステム」というのは、基本的にはコンピュータやマイクロコンピュータ・チップを搭載した対話型のシステムと、それに関連する現象を指している、そこには「コンピュータを使ったシステム」という意味が込められています。ただし、実際には、人間中心設計の考え方は、インタラクティブシステムに限らず、建物や道路、食べ物など、あらゆるものに適用することが可能で、ISOやJISなどの標準化規格が規定している範囲以上に幅広く適用できる概念といえます。

## ユーザ理解のための調査を デザインに生かす

皆さんは、人工物の利用に際して、どのような状況を経験したことはありませんか？ 人工物の操作の仕方や使い方が分からない、操作を間違えてしまう、操作手順が複雑で煩わしい、余計なメニュー項目が出てきて目的の項目が出てこない、アイコンの意味が分からない、リニューアル前の方が分かりやすかった、ここはもつところだったらいのに……

など、さまざまあると思います。このような人工物の利用上の問題は、人間中心設計のアプローチによってデザインすることで、防げます。

人間中心設計に沿ったデザインでは、

ユーザとその利用状況、利用の仕方、利用の経験について深く把握するための調査を、設計開発の初期の段階で実施します。人工物を使うユーザがどのような人、どのような生活をしていて、どのような価値観を持っているのか、そしてユーザがどのような場面で、どのような目的で、どのように対象の人工物を利用するのか、などを調査によって把握し、そこから導出したユーザのニーズに基づいて、デザインを考えます。単に必要な仕様や機能を満たすだけでなく、ユーザがより大きな利便性や満足感を感じられるように、最初の段階で調査を行い、ユーザについて深く理解した上で、人工物のデザインを最適化しようとするわけです。

こうしたユーザを理解するための調査に基づいてデザインを行うと、満足感が高まるほか、利用頻度も上がるなど、ユーザの行動も変わってきます。また、人間の行動原則やユーザを深く知れば、ユーザの行動を促すようなデザインを作り込むこともできます。

しかしながら、企業の現場で、そうした調査をうまく実施できるデザイナーやエンジニアは意外と少ないです。他方で、さまざまな調査手法を学んできた、社会学や心理学などを専門とする人たちは、ユーザ中心にデザインを考えることに向いています。文系学部の卒業生も、人工物のデザインや設計の現場で活躍されることを期待しています。



Hashizume Ayako

1984年生まれ。法政大学文学部卒業。早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了。筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程修了。博士(感性科学)。首都大学東京(現東京都立大学)システムデザイン学部助教を経て、2019年に法政大学社会学部メディア社会学科に専任講師として着任。2022年より現職。『JIS Z 8530:2021 人間工学—人とシステムとのインタラクション—インタラクティブシステムの人間中心設計』(日本規格協会、2021年)の原案作成委員会の委員長を務め、日本感性工学会より著作賞、日本人間工学会より標準化貢献賞を受賞。「現場の声から考える人間中心設計」(共立出版、2022年)で、日本感性工学会より著作奨励賞を受賞。専門はヒューマン・コンピュータ・インタラクション。

## 江戸時代の文芸を 多面的に探究

狂歌・戯作や浮世絵に代表される江戸時代の文芸に魅了され、多面的に研究を深める小林ふみ子教授。  
「法政愛」にもあふれ、本学の自校教育やブランディング事業などに深く関わっています。

文学部日本文学科 教授 小林 ふみ子

「られるのだと自負してらます。」

### 歴史的な視野を持って 問題意識を喚起する

私たちが認識している「伝統文化」は、古来から厳かに継承されてきたものばかりではなく、近代になって都合よく創造されたものもあることが明らかになっていきます。実際に、文献と照らし合わせてみると、「常識」だと思われていた事柄が実はそうではなかったり、昔は「当たり前」だったのに、いつの間にか特別視されるようになっていたりすることがあります。性を巡る事情や夫婦の姓をはじめとする家制度もその一つです。

近世日本は家制度が浸透した時代ですが、夫婦の同姓は一般的でなく、墓も家単位ではなく個人墓も多く、血縁はそれほど重視されず養子が家を継ぐことも多くあったようです。また古来「男色」が存在し、特に江戸時代は盛んでした。文芸作品や数多くの浮世絵に描かれていることから、ごく当たり前の日常だったことが分かります。しかし、現代の日本は同性愛に対する偏見が存在し、明治の国家主義に合わせて作られた家制度が「伝統」とみなされがちです。

こうした現状に警鐘を鳴らす意味で、授業では意図的に江戸時代の状況に触



2017年の授業科目「法政学への招待」の科目責任者仲間の高柳先生、担当の戸部課長（当時）、TA（ティーチングアシスタント）の鄭さんと共に



大田南畝ゆかりの神社として知られる、ときわ台天祖神社によるまちづくり活動に招かれて講演。これも私なりの「実践知」です



アクティブラーニングで日本古典文学の学びを現代に生かすための方法を研究する共同プロジェクトでワークショップを実施



### 文芸研究を教育につなげる 奥深さを再確認

江戸時代の文芸の研究に従事しています。研究対象は幅広く、中でも、狂歌をはじめとする大田南畝の作品群、葛飾北斎らの浮世絵の世界には魅了されています。

文芸作品を通じて江戸文化を探究していると、江戸東京という都市の個性や価値が見えてきます。江戸東京研究センター（ETOS）では昨年度から「江戸東京の『ユニークさ』研究」というプロジェクトでリーダーを担い、研究、情報発信にも努めています。

法政大学に着任した当時は、文学部ではなく、設立2年目のキャリアデザイン学部に着任していましたが、新しい教育を作り上げようと尽力する輪の中で、「現代人のキャリアデザインに興味を持つ学生に、自分が提供できる学びは何か」と考え抜き、学生と真剣に向き合う日々を送りました。長年続けてきたガールスカウト活動で培ったコミュニケーションスキルを武器に、江戸から現代人の当たり前を相対化し、学生の学びを深めることに努めたつもりです。

れ、「思い込みで惑わされず自由に思考すること」の大切さを伝えていきます。歴史的な状況を知ることで現代を相対的に見る、つまり異性愛のみを前提に結婚によって女性が家庭に奉仕することへ成り立つ社会設計が当然でないことへの気付きを促したいと考えています。

文学は、心を豊かにしてくれる学問ですが、社会の中で直接何かの役に立つ実学ではありません。しかし、現代社会が抱える課題に対して、歴史的な視野を持って、問題意識を喚起し、情報を発信していくことはできます。それが私なりの「実践知」です。次の目標は、東アジアの近世・近代都市で生きる女性たちに焦点を当てて実施したシンポジウムの成果をまとめて書籍化すること。年度内の出版を目指し、原稿の集約に取り組んでいます。

### 法政学を通じて 法政大学の真価を伝えたい

法政大学には、引き寄せられたような縁と愛着を強く感じています。

文学部のある市ヶ谷キャンパス周辺は、大田南畝の生家があったことに加えて、文学史に名前を連ねる文人たちにもなじみが深い場所です。日々が「聖地巡礼」のような気分です。大田南畝ゆかりの地で働けることに喜びを感じながら、キャンパスに通っています。

2008年に「明日の法政を創る」審議会が設置された際には委員として末席に加わり、本学をより深く理解できる「法政学」設置を議論し、その授業は開講時から担当しています。その経験を生かし、本学のブランディング事業が始動した際には、「ブランディング戦略会議」に積極的に携わり、法政大学憲章の草稿作成も担当しました。2022年度は文学部100周年の節目の年でもあり、記念イベント運営にも携わっています。

こうした活動の根底には「一人でも多くの学生が法政大学の真価に気がつき、そこで学ぶ喜びを実感してほしい」という思いがあります。興味があれば、ぜひ「法政学」に触れてみてください。自由な議論を導んだ、心豊かでユニークな先人たちの姿がそこにあります。法政大学を内側から知ること、法政大学が母校であることを誇らしく感じてください。

**Kobayashi Fumiko**  
1973年山梨県生まれ。東京大学文学部日本語日本文学専修課程（国文学）卒業、同大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（DC2）、ロンドン大学アジアアフリカ研究学院（SOAS）客員研究員、日本学術振興会特別研究員（PD）などを経て、2004年にキャリアデザイン学部専任講師に就任。同学部准教授を経て、2011年より文学部准教授に転任。2014年より現職。現在に至る。日本文学協会、日本近世文学会、国際浮世絵学会所属。

※2 法政学：全学部対象のリベラルアーツ科目（総合教養科目）。正式な科目名は「大学を知ろうく法政学への招待」（旧科目名「法政学への招待」）。

※1 狂歌：五七五七七の31文字で構成され、社会風刺などが詠まれた和歌（短歌）の一種。

**ア** ルティメットはフライングディスクをパスしながらフィールドのエンドゾーンまで運ぶ競技で、バスケットボールやアメリカンフットボールを合わせたようなスポーツです。フェアプレーを重んじ、選手自らがジャッジする自己審判制を採用しているのも特徴的といえます。

「フィールドにいる7人は、ディスク運びの軌道を決めるハンド、ディスクをつないでシュートを打つミドル、キャッチ力に優れた得点役のディープとポジショニングに役割が異なります」と語る中村さんは、チーム唯一のサウススポー。ディスクが飛ぶ軌道が読みづらくなるので、対戦相手を感じずハンド役として期待されています。「自分の技術不足を感じてきているので、さらにチームに貢献できるように力を付けたい」と意欲的に語ります。

活動の主軸は、全国規模で戦う「全日本大学アルティメット選手権大会」と、新人戦にあたる「全日本U21アルティメット選手権大会」。サークル初の全国大会出場を目指して自分たちのレベルアップに励む一方で、砂浜で開催されるビーチアルティメットなど、初心者でもレクリエーション的に楽しめる大会にも積極的に参加。緩急のメリハリを付けながら、アルティメットのさまざまな

**工体連アルティメット部  
FOXYS!!**

**パスでつなく  
フライングディスクが  
全員の気持ちをつなく**



**クラブ・サークル**

左から瀬海鈴菜さん(理工学部応用情報工学科2年)、洲上運生さん(経営学部経営学科2年)、鈴木蒼空さん(理工学部経営システム工学科2年/代表)、中村健人さん(理工学部機械工学科2年)  
※撮影時のみマスクを外しています



メン部門(オープン部門)の大会に参加した際の一瞬。ルール上は性別不問だが、男性主流のチーム編成で臨むことが多く、ダイナミックな戦いが繰り広げられる



男女混合でチームを組むミックス部門の試合にて。ディスクを落とすと攻撃権を失うので、大きくジャンプをして難しい片手キャッチに挑むことも



体をひねるようにしながら、スナップを利かせて投げるバックハンドスロー。左利きだとディスクの軌道が逆になり、予想しづらくなるので有利に

楽しみ方を追求しています。

「今まで自分と戦ってばかりでしたが、今はチーム競技の楽しさを満喫しています」と語るのは、陸上部出身の瀬海さん。競技人口がまだ少ないため、輪を広げようと学外との交流も盛んです。特に今は女性部員の数が少なくなくなってしまっているため、他大学との合同チームを結成するなどして、さらに仲良くなっています」と明るい笑顔を見せます。

「コロナ禍で友だちがでづらかったのですが、アルティメットを通じて人とのつながりを感じられることが心の支えになりました」と語るのは洲上さん。学外のチームにも参加して、仲間を増やしています。「アルティメットでは、試合中いつでも選手交代ができることもあり、常に全員で戦っているような連帯感を味わえます。チームスポーツとして、このスポーツ特有の「究極」を感じられると思います」。

「大学から始める人が多いので、スタートラインは皆同じ。やればやるほど上手くなる、自分の可能性を実感できるので楽しくて仕方ありません」と語るのは、代表の鈴木さん。「これまでの戦績は関東大会5位がベストなので、次こそ全国大会へと進みたいですね。大会MVP賞も狙っています」と熱を入れます。

**人** の命を守る、生体のための化学工学の研究に取り組んでいる山下研究室。化学工学による分離・精製技術を医療に転用し、人工臓器の性能検証や新たな開発に携わっています。医療機器の研究開発には膨大な時間を要するため、大学院生がマンツーマンで学部生を指導し、情報を継承しながら研究を進めています。

人工臓器の装置性能向上の実験に取り組んでいるのは桑畑さん。「人工臓器の大切な働きが、血液の浄化です。中空系と呼ばれるストロー状の膜で、血液中に蓄積している老廃物を取り除きます。この時、超音波をかけることで、老廃物の除去性能が変化するか検証しています」と語ります。

「間欠補充型血液透析ろ過(1-HDF)」と呼ばれる透析治療の効率を向上させるための実験を手掛けているのは田沼さん。「先日、初めて人工臓器の学会に参加して、規模の大きさに驚き、まだまだ勉強しないとけないと刺激を受けました。将来は海外の学会で発表してみたい」と未来を思い描きます。

人工臓器で血液を浄化する際に、中空系の表面に開いている分子レベルの穴を塞いでしまうフアウリング現象を人為的に再現しているのは日暮さん。「検証データを取得するため

**生命科学部環境応用化学科  
生体化学工学研究室(山下明泰教授研究室)**

**化学工学の観点から  
医療を支え、命を守る  
研究に取り組む**



**ゼミナール・研究室**

前列左から日暮大貴さん、山下明泰教授、中島正一朗さん、後列左から桑畑謙志さん、田沼彩賀さん、平田光希さん  
※全員、生命科学部環境応用化学科4年 ※撮影時のみマスクを外しています



透析治療に用いられる人工臓器。プラスチック製の外筒の中に1万本の中空系が詰められていて、中に血液を通すことで血液を浄化できる



研究室では、オンとオフのメリハリも大切にしている。過去には研究が一段落した冬の合宿で、スキーなどを楽しみながら親睦を深めた(2016年撮影)



山下教授を囲み、大学の枠を超えた研究仲間との交流が続いている。写真は、前任校での教え子たちも集合した忘年会での一枚(2016年撮影)

に、実験には3日間を要します。途中でトラブルが起これると最初からやり直しになってしまうので、慎重に対応しています」。

新たな展開として、携帯できる血液浄化器の開発を目指す研究を手掛けているのは平田さん。「今、取り組んでいるのは、ゲルと活性炭を用いて血液中の不純物を吸着させて取り除く仕組みです。活性炭をそのまま使うと血液成分に悪影響を与えてしまうので、生体適合性を向上させる条件を探る実験を進めています」。

適切な薬剤を患部に届けられるようにコントロールする、ドラッグデリバリーシステム(DDS)に取り組んでいるのは中島さん。「新しいことにチャレンジしてみたいと思っ始めたのですが、先行研究を手掛けている先輩がいなくてもあり、なかなか思うようには進まなくて。今は、試行錯誤を繰り返しています」と悩みながらも、意欲を語ります。これらの実験の経過報告は、毎週交代で発表し、お互いの情報を共有しています。

「研究は知の格闘技。難攻不落な強敵だけど、諦めずに立ち向かってほしい」と語り、学生を見守る山下教授。学生らは、化学工学の見地から医学の進歩に貢献したいと願い、繊細な実験を繰り返しています。

# THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。  
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介しします。



## 柔道部

撮影場所：法政大学第二中・高等学校 柔道場  
撮影：田中伸弥

1919年に創設された柔道部は、現在、選手とマネージャー合わせて26人で活動しています。週6日は、川崎総合グラウンドにある道場で練習に励んでいます。東京学生柔道連盟の1部リーグに所属し、全日本学生柔道優勝大会(インカレ)には毎年出場するなど、全国トップレベルの選手が集まっています。過去には、学生柔道界の雄として、さまざまな実績を残しており、多くの卒業生が全国津々浦々で活躍しています。今年度はインカレ入賞を目標に、さらなる実力向上に向けて、チーム一丸となって日々稽古に励んでいます。今後とも応援よろしくお願いします。

## Message

「自由を生き抜く実践知」を  
体現している  
学生の声を届けます。

## オープンキャンパスという<sup>たすき</sup>襷を受け継ぎ、そして未来へ

市ヶ谷オープンキャンパススタッフ代表  
法学部法律学科3年

Oro Hayato

荻隼人さん

「最高！法政大学に入ってよかった」——これが、2022年度市ヶ谷オープンキャンパスが終わった時の私の気持ちです。  
「受験生が大学選びに迷う」という受験生の誰もが直面する課題に対して、大学生が主体的に大学の魅力を発信していくことで、課題の解決に貢献する。これこそが、法政大学のオープンキャンパスです。  
企画から運営まで全て学生主体で行うオープンキャンパスだからこそ、「学生」に魅力を感じて入学を決める高校生も多いのです。実は私もその1人でした。

私は2年生から市ヶ谷オープンキャンパススタッフの活動を始めました。当時は新型コロナウイルス感染症の影響により、対面ではなくオンラインでの実施でした。秋には対面型オープンキャンパスを1日限定で実施できたものの、本当の意味での達成感を得ることはできませんでした。

3年生になった2022年、二つの思いから代表に立候補しました。一つ目は「今年こそは夏の対面型オープンキャンパスを実施したい」、二つ目は「法政大学オープンキャンパスの襷(たすき)を受け継ぎ、よ

り良い色の襷に変えて後輩に受け継ぎたい」という思いです。

3年ぶりの夏の対面型オープンキャンパスの実施が決まり、スタッフの気持ちが高まる一方で、対面型の経験不足から不安な声もありました。しかし、そんな状況だからこそ、「スタッフ280人全員で作り上げている」と実感できるような環境づくりに尽力しました。常にスタッフの悩みや意見を聞くことができるように、定期的にアンケート調査を行い、各企画の垣根を越えた練習会の開催も試みました。

その結果、全員が一丸となって実



施したオープンキャンパスになりました。主体的に動くスタッフの姿と、それを見る来場者のまなざしは法政大学ならではの光景そのものでした。私が代表としてここまで務めることができたのは、温かく見守ってくれた先輩方、共に走り続けてくれた同期、頼りになる後輩、学生が自由に活躍できる場を設けてくださった教職員の方々、そして来場者の皆さまがいてくださったからです。  
法政大学には、それぞれが主体的で自由に活躍できる場があります。ぜひ、自分が輝けるステージを見つけてほしいと思います。

オープンキャンパス2022 開催レポート

※オープンキャンパスに関する詳細はTOPICS(p.28)でも紹介しています。



# 後援会だより

「子どもの母校は我が母校」  
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

後援会からのメッセージ

## 支部総会・父母懇談会総括



法政大学後援会会長  
鯨岡 光男 (祐介/社会学部)



後援会の主要活動の一つである「支部総会・父母懇談会」は、毎年7・8月に全国35支部で開催されます。総会では年間事業や予算・決算、新役員の承認などを行い、懇談会は会員相互の親睦を図る大切な場と位置付けています。例年、後援会の本部役員のほか、大学関係者にもご出席いただき、講演や意見交換を通じて親交を深めております。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、残念ながらここ数年は中止やオンラインでの開催、出席者人数の制限など、厳しい制約・条件下での実施を余儀なくされました。本部役員や大学関係者の対面での参加も中止していました。

今年度は、感染防止策を講じて3年ぶりに対面による開催を実施し、新たな形としてオンライン方式も併用する地域ブロック制を導入しました。

大学からは、廣瀬克哉総長をはじめ常務理事、学部長、キャリアセンタールの方々にご参加いただき、昨今の大学と学生たちの様子を中心に、就職活動についてもお話しいただきました。廣瀬総長をはじめ、大学関係者の方々のご協力に感謝いたします。

本部役員が久しぶりに支部の方々と直接触れ合えた意義は大きく、法政大学に子どもを通わせている同志として、有意義な意見交換を行いました。

また各支部の役員の方々には、感染防止にご留意いただきながら、開催に向けた準備や当日の運営まで、そのご負担は大きかったことと推察いたします。改めてそのご尽力に感謝申し上げます。

「コロナ禍前のような後援会活動を行いたい」との思いは、会員の皆さま、本部、大学共に同じです。一方、コロナ禍で経験やノウハウが伝承されていないことの影響の大きさも感じています。ウイズコロナ社

会の実現に向けて動き出した今年度は、できることから徐々に活動を再開していくことが大切だと考えております。今秋は東京六大学野球応援企画を再開し、「法政を応援する喜び」「法政ファミリーの一員である喜び」を分かち合えたと思います。また、お子さまが通う3キャンパスの見学ツアーも企画いたしました。引き続き大学と連携を図りながら、後援会の運営を進めてまいります。後援会活動へのより一層のご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



## 支部総会・父母懇談会

2022年度は、支部運営の「支部単独開催」と、本部が運営をサポートする「地域ブロック開催（オンライン併用）」の2方式で開催しました。どの支部・ブロックも、和やかな雰囲気笑顔あふれる会となりました。その一部をご紹介します。



東北ブロック(青森、秋田、宮城県支部)  
父母懇談会/7月10日(日)



中国ブロック(岡山、広島、鳥取・島根県支部)  
父母懇談会/7月16日(土)



九州ブロック(福岡、佐賀・長崎県支部)  
父母懇談会/8月21日(日)



栃木県支部  
支部総会・父母懇談会/8月27日(土)



新潟県支部  
支部総会・父母懇談会/8月20日(土)



東海支部(愛知・岐阜・三重)  
支部総会・父母懇談会/7月30日(土)



山口県支部  
支部総会・父母懇談会/7月24日(日)



長野県支部  
支部総会・父母懇談会/7月24日(日)



宮崎県支部  
支部総会・父母懇談会/7月10日(日)

後援会本部からのレポート

## 父母懇談会地域ブロック開催報告



後援会副会長  
滝沢 かおり (あかり/経営学部)

今年度より、単独での支部総会・父母懇談会の開催が困難な支部を対象に、地域単位のブロック開催を実施することになりました。

ブロック開催を希望した支部では、支部総会につきましては、ウェブ表決を活用して決議を行いました。また、父母懇談会はハイブリッド型とし、対面でもオンラインでも参加できるようにしました。

大学教員(各学部長など)の皆さまには対面で、「ウィズコロナ期の授業と学生生活」ポストコロナを展望して」と題する講演をしていただきました。ある学部長は「自身が担当されているゼミの様子を2年前と現在の写真などでご紹介いただき、アフターコロナの状況を詳しくご説明いただきました。

キャリアセンターの職員の方々にはオンラインで、「最新の就職状況と本学キャリアセンターの取り組みについて」をテーマに話していただきました。コロナ禍の影響による就職活動の変化や、今後の情勢も視野に入れて学生をサポートしていただき、改めて法政大学の就職支援の手

厚さを実感しました。

ブロック開催は初の試みではありましたが、コロナ禍の影響で思うように活動ができず、行事の引き継ぎなどが困難だった支部の皆さまには、新しい形の開催方法をご提案できたのではないかと思います。今回のブロック開催が、今後の新たな活動の契機となれば幸いです。

最後となりますが、ご参加いただきました皆さま、開催にご協力いただきました皆さまに、この場をお借りして心から感謝申し上げます。引き続き、後援会活動へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

関東ブロック(群馬・茨城)の父母懇談会



関東ブロックの受付の様子

### 法政大学後援会事務局

〒102-0073  
東京都千代田区九段北 3-2-3 法政大学九段校舎 4F  
TEL: 03-3264-9350  
FAX: 03-3264-9367  
E-mail: koenkai@hosei.ac.jp



後援会ウェブサイト  
<https://www.hosei-koenkai.org/>



山形県支部からのレポート

## 支部総会・父母懇談会報告



山形県支部長  
佐藤 啓 (有紗/経済学部)

山形県支部では7月24日(日)、第52回支部総会・父母懇談会を山形国際ホテルにて開催し、会員25人にご参加いただきました。

コロナ禍により3年ぶりの開催となったため、準備や運営に慣れないところを後援会本部やOBの皆さまにご支援いただきました。無事開催することができ、感謝申し上げます。

父母懇談会には、大学から廣瀬克哉総長、キャリアセンターの内田貴之次長、後援会から鯨岡光男会長にご出席いただき、心のこもったごあいさつを頂戴いたしました。

廣瀬総長の講演では、コロナ禍における大学の取り組みや学生の状況を詳しく丁寧にお話しいただき、愛情あふれる教育環境で、学生が学んでいることに安心いたしました。

キャリアセンターの内田次長からは、法政大学が就職支援の学生満足度で全国ランキング第4位であること伺い、サポート体制の充実ぶりがよく分かりました。また、参加者からの質問も多く、大学のさまざまな取り組みに対する関心の高さがうかがえました。

懇談会後の懇親会では、コロナ禍により幻となってしまった山形県支部創立50周年行事や、当時の面白いエピソードなどについての話も聞くことができ、和やかな雰囲気の中、大変有意義なものとなりました。

コロナ禍により中断していた支部活動ですが、今回の支部総会・父母懇談会を通じて役員組織も立ち上がることができ、安心しております。

これからも山形県支部にご支援、ご協力をお願い申し上げます。

支部総会・父母懇談会の参加者一同



懇親会の様子





HOSEIミュージアム  
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

# 野上記念法政大学能楽研究所 創立70周年記念特別展示「危機と能楽」 「お宝」のレプリカ初披露

野上記念法政大学能楽研究所が所蔵する数々の貴重な能楽資料の中で、写真掲載や出展の依頼が飛び抜けて多いのが、「二曲三体人形図」と「光悦謡本」です。

同研究所には、法政大学が所蔵する唯一の重要文化財「吉川家旧蔵車屋謡本」もありますが、こちらは見た目が地味なせいも、出展の依頼はほとんどありません。今年の夏に開催された、奈良国立博物館の特別展「中将姫と當麻曼荼羅」に出展したのが初めての貸し出しで、人気の差は歴然としています。一方、「二曲三体人形図」と「光悦謡本」は、間を置かずに出展の依頼が来ることもあって、出展を許可してよいものかどうか、判断に悩むこともしばしばです。

能の演技の心得を人体の絵図によって示したもので、世阿弥の自筆本は現存せず、室町時代の伝本もわずか2本しか伝わっていません。その現存最古の伝本が同研究所の所蔵品で、世阿弥の娘婿・金春禪竹の筆。失われた世阿弥自筆本の面影を最もよく伝えるとされています。

もう一つの「光悦謡本」は、江戸初期に刊行された謡本です。雲母刷模様に表紙や本文料紙を装飾した豪華な本として知られています。印刷物のため、「光悦謡本」自体はいくつも伝存しますが、同研究所所蔵の「光悦謡本(大原御幸)」は、18種もの雲母刷模様に装飾された最上の特製本で、これと全く同じ装訂の「光悦謡本」は他に二つとありません。まさに一点物のレアな「お宝」です。

今回、HOSEIミュージアム開設準備基金により、この二つのお宝のレプリカを作ることになりました。レプリカ制作で多くの実績がある京都の会社・大入に依頼し、このたび完成したレプリカは、実に見事な出来栄。原本の紙質はもちろん、綴紐のねじれに至るまで克明に再現していて、ちらっと見ただけでは、どちらが原本で、どちらがレプリカであるのか、判断がつかないほどです。

資料保存の観点から、原本はなかなか長期展示ができませんが、レプリカならそれも可能です。同研究所70周年記念特別展示「危機と能楽」では、二つのレプリカをミュージアム・コアでロングラン展示します。この機会にぜひ多くの皆さんにご覧いただければと思います。

\*8・9月号にも記念展示の記事を掲載



## 野上記念法政大学能楽研究所 特別展示

「危機と能楽 ―いかに受け止め乗り越えてきたか―」

場所：市ヶ谷キャンパス HOSEIミュージアム・コア  
(九段北校舎1階) ほか

期間：2022年9月1日～2023年1月31日

※HOSEIミュージアム開設準備基金により制作しました「二曲三体人形図」「光悦謡本」のレプリカを、本展示で初公開しています。

期間は展示場所により異なります。日程や内容は変更になる可能性があります。詳しくは上記QRコードからご確認ください。



ミュージアム  
ウェブサイト

- 1 「二曲三体人形図」の表紙。右がレプリカ、左が実物
- 2 「二曲三体人形図」(レプリカ)。「天女舞図」(左)、右は「力動風図」の裏面
- 3 雲母刷模様が見事な「光悦謡本(大原御幸)」(レプリカ)

# 校友会だより

一般社団法人法政大学校友会(以下、校友会)は、「法政ネットワーク」強化を目的に、校友会憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。



新潟県妙高市で行われた、陸上競技部駅伝チーム夏季強化合宿の様子

## 校友会で取り組む学生支援

校友会では、在学生の支援を目的に次の募金事業を実施しています。毎年、多くの卒業生に寄付のご協力を呼びかけ、在学生の活動を応援しています。

### 法政大学校友会奨学金

経済的に困窮した学生の皆さんを支援するために、2017年度に設立した奨学金制度です。給付金額は文系学部25万円、理工系学部30万円としています(採用若干名)。返還不要の給付型奨学金です。

### 箱根駅伝応援募金

陸上競技部駅伝チームの活動を支援するために、2017年度に設立しました。皆さまからのご寄付は、合宿費や治療費などの補助に使わせていただいています。

昨年度は、校友会が一丸となって駅伝チームを応援する「駅伝チーム応援キャンペーン」もスタートしました。2022年度もこの応援キャンペーンを実施中です。

応援キャンペーンでは、合宿での練習風景や選手へのインタビューなど、駅伝チームに関するさまざまな情報を「駅伝チームニュース」として配信しています。他では見られないニュースも配信していますので、ぜひチェックしてみてください。



「駅伝チームニュース」  
はこちらから

## 全国卒業生の集い 栃木大会

第28回法政大学全国卒業生の集い 栃木大会は、コロナ禍によって延期していましたが、2022年11月4日(金)～6日(日)に開催します。全国各地から参加される校友の皆さまが絆を深められ、意義ある大会となりますよう準備を進めています。

### 11月4日(金) 記念ゴルフ大会

名匠・井上誠一氏設計の昭和11年開業の名門ゴルフ場「那須ゴルフ倶楽部」にて。紅葉の見事な那須岳麓でのプレー後は、自噴の温泉へ

### 11月5日(土) 式典・記念講演・特別公演・懇親会

- ・記念講演：パン・アキモ社長 秋元義彦氏(栃木県校友会副会長)「世界を救う・みどりの救世主」
- ・特別公演：日光東照宮宮司・稲葉久雄様の解説による「日光東照宮流鎗馬演舞」
- ・演舞：古河電工日光事業所舞楽会による日光和楽踊り
- ・懇親会：SWINGING HERDによるジャズコンサート、法政大学応援団演舞

### 11月6日(日) エクスカーション

日光東照宮、日光山輪王寺大猷院、二荒山神社、日光田母沢御用邸記念公園などを巡る、秋の日光を楽しむコース



## サッカー部の落合毅人選手、今野息吹選手がJ1リーグへの加入内定



落合選手(写真提供:サッカー部) 今野選手(写真提供:サッカー部)

本学サッカー部の落合毅人選手(経済学部4年)は、2023シーズンより清水エスパルス(J1)への加入が内定。さらに今野息吹選手(経済学部3年)が2024シーズンよりガンバ大阪(J1)への加入が内定しました。今野選手は「2022年JFA・Jリーグ特別指定選手」にも認定され、2022シーズンからJリーグの公式試合への出場が可能になりました。

今後も本学サッカー部出身選手の活躍にご期待ください。

## レスリング部の中村成実選手、木村彩夏選手が世界大会で好成績



中村選手 木村選手(写真提供:レスリング部)

7月7日(木)～8日(金)にバーレーン・マナマで開催された「レスリングU20アジア選手権59kg級」にて、中村成実選手(文学部2年)が優勝。自身初の国際大会優勝を飾るとともに、女子国別対抗の日本1位に大きく貢献しました。

さらに8月15日(月)～20日(土)にかけてブルガリア・ソフィアで開催された「レスリングU20世界選手権女子フリースタイル53kg級」には、日本代表として木村彩夏選手(文学部1年)が出場。2戦目で敗北したものの、敗者復活戦で勝ち上がり見事3位を獲得しました。

## 応援団チアリーディング部 競技チア夏の大会で入賞

8月21日(日)に「USA JAPAN チアリーディング&ダンス学生選手権大会 2022 EAST」が開催され、法政大学応援団チアリーディング部からは3チームが参加。「Orangeチーム」は3位入賞、1年生を中心に編成された「Twinkle Orangeチーム」はグッドスピリットチームに選出されました。1～3年生にとっては初めての大会での受賞です。

チアリーディング部は応援団に属し、競技チアだけでなく体育会各部の試合応援を盛り上げています。一緒に応援してみたいかがでしょうか。



## 数理・データサイエンス・AIプログラム(MDAP) リテラシーレベルが文部科学省認定プログラムに選定

全学部共通科目として、2021年9月から開講された「法政大学数理・データサイエンス・AIプログラム(MDAP\*)」リテラシーレベルが、文部科学省認定制度プログラムとして選定されました。このプログラムは、既存の学部・学科の枠組みを超えてデータサイエンスやAIを学ぶことにより新しい価値を創造し、かつ持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを目的としています。今回認定されたリテラシーレベルに続き、2022年9月から開講している「応用基礎レベル」でも認定申請を計画しています。

\*MDAP: Mathematics, Data science, and AI Program



## 国際文化学部の島野智之教授が日本動物分類学会の「学会賞」を受賞

6月4日(土)～5日(日)、オンラインで開催された日本動物分類学会第57回大会で、国際文化学部の島野智之教授が「第19回日本動物分類学会賞」を受賞しました。

この賞は、動物分類学の分野で優れた研究業績を上げ、動物分類学の進展に貢献した人が選出されるものです。



## デザイン工学部の今井龍一教授が土木学会「土木情報学論文賞」を受賞

デザイン工学部都市環境デザイン工学科の今井龍一教授が、土木学会から「土木情報学論文賞」を受賞しました。

受賞対象の論文は、「夜間の交通量調査のためのGANの適用に関する研究」です。この研究では、夜間に撮影された動画画像での明るさを確保するために、深層学習を用いて夜間に撮影した動画画像を昼間に撮影した動画画像のように変換して交通量調査を実施する手法を考案。実証実験を通じて考案手法の実用化に向けた具体的な検討事項を明確にしたことが評価されました。

## 多摩キャンパス近隣農家と連携して地産地消の学食メニューを学生が企画

6月27日(月)から29日(水)にかけて、多摩キャンパス16号館食堂(エッグドーム・スローワールドカフェ)にて大学近隣の地元野菜を使用した特別メニューが提供されました。

この企画は法政大学多摩地域交流センター登録の学生プロジェクト「Team Ethical by ホーセイノベーションクラブ」によって立案されたものです。さらに、JA町田の協力を得て地元農業経営者のインタビュー動画を上映するなど、学生が近隣地域の産業について学びきっかけにもなりました。



## 市ヶ谷・多摩・小金井3キャンパスでオープンキャンパスを実施しました



オープンキャンパス 2022

各キャンパスで、オープンキャンパスを実施しました。開催日程は次の通りです。

市ヶ谷8月20日(土)～22日(月)／多摩8月6日(土)、11日(木祝)／小金井8月6日(土)

いずれのキャンパスでも、感染症対策のため、事前予約制で来場人数を管理しての開催となりましたが、学科説明会や模擬授業、キャンパスツアーなどが実施され、学生が主体となって受験生のサポートに注力しました。各オープンキャンパスの様子は、大学入試情報サイトで公開されています。

## 在学生向けのイベント情報発信ページ「集まれ!法大生!」を公開



集まれ!法大生!

在学生を対象として、身近なテーマを扱った課外講座や海外大学との交流会など多彩なイベントが開催されています。学習をはじめ、学生生活を送る上でのヒントとなるようなイベントなどもあるので、ぜひ積極的にご参加ください。

各イベントの募集内容や詳細は随時更新されています。最新の情報は大学ウェブサイトを確認してください。

## 産学連携でSDGs推進を図る「STARTプログラム」が始動

SDGs(持続可能な開発目標)を推進する新たな教育プログラムとして「STARTプログラム(SDGs Target Active learning Revolutionary Trial Program)」が始まりました。

このプログラムは、一般財団法人三菱みらい育成財団による2022年度助成事業に採択されたもので、産学連携のもと本学が有する知的資源を活用して、21世紀を生き抜くために必要な課題解決能力を身に付けることを目的としています。

プログラム内容は「ゼミナール編」「思考力養成編」「現地フィールドワーク」などから構成されていて、本学と連携している国内外大学の学生が受講可能です。

## 「カーボンニュートラル推進に向けて」総長ステートメントを公表

本学は、大学全体としてカーボンニュートラルと脱炭素社会の実現に向けた取り組みを加速させるため、総長ステートメントとして「カーボンニュートラル推進に向けて」を公表しました。事業活動で温室効果ガスの排出量削減を目指すとともに、教育機関として地球規模の環境・社会問題に取り組む人材を育成し、社会に輩出することを目指します。研究機関としては、他大学、自治体、企業などと連携し、最先端の研究によって脱炭素社会に貢献していきます。

カーボンニュートラル推進に向けて、2022年度からグリーン電力証書システムに参加し、年873万2107キロワット時相当量の自然エネルギーの普及に貢献しています。



カーボンニュートラル宣言

## 日本学生支援機構奨学金の返還手続きに関するお知らせ

2023年3月に日本学生支援機構奨学金の貸与が終了する学部4年生および大学院生には、各キャンパスの学生センター奨学金担当から、返還手続きに関する書類を郵送で配布します。受領後、金融機関で口座振替の手続きをしてください。HoppiiのWeb掲示板でもお知らせします。

なお、卒業後に返還が困難な場合には、「減額返還制度」や「返還期限猶予制度」があります。

## 全日本女子学生剣道選手権大会の連覇を果たした水川晴奈選手が廣瀬総長を表敬訪問

7月26日(火)、「第56回全日本女子学生剣道選手権大会」で優勝した剣道部の水川晴奈選手(キャリアデザイン学部2年)が、剣道部部長の武生昌士教授(法学部)、監督の依田光弘氏(文学部卒)、女子コーチの澤野巧樹氏(文学部卒)とともに廣瀬克哉総長を表敬訪問し、大会の戦績報告を行いました。

水川選手は、昨年12月に開催された第55回大会に続いて、第56回大会でも優勝し、2連覇を達成。同大会の連覇は15年ぶり史上5人目の偉業であり、本学としては初の快挙です。

廣瀬総長は報告を受け、「これからさらに強い水川さんが誕生するのを期待しています」と活躍を称えました。



本学専任教職員の最近の著書、編纂書、訳書をご紹介します。

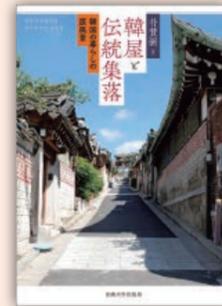
# BOOKS



## シネアスト高畑勲 アニメの現代性

東映動画『太陽の王子 ホルスの大冒険』からテレビシリーズ『ルパン三世』『アルプスの少女ハイジ』、スタジオジブリ『おもひでぽろぽろ』まで、アニメ特有の制作過程を踏まえつつも実写映画と共通する手法から演出の特色を緻密に分析。ディズニーの古典モデルからの脱却を急進的に推し進めた高畑作品の「現代性」を解き明かす評論。

ステファヌ・ルルー 著  
岡村 民夫 訳  
国際文化学部国際文化学科 教授  
出版社：みすず書房  
発行：2022年4月



## 韓屋と伝統集落 韓国の暮らしの原風景

韓国の伝統的家屋建築、韓屋（ハンオク）にはどのような特徴と機能があるのか。集落の形態から見てくる人々の知恵と美意識を、600点超のカラー写真や図版とともに紹介。30年にわたって各地を調査し、韓国と日本の伝統建築を実際に目にしてきた著者による貴重な研究成果。

朴 贊弼 著  
デザイン工学部建築学科 専任教員  
出版社：法政大学出版局  
発行：2022年3月



## 今すぐ転職を考えていない 人のためのキャリア戦略

今の仕事や生活にモヤモヤを抱えている人に贈る「これからの働き方の教科書」。キャリア論の知見と筆者の経験、ビジネスパーソンへのヒアリングなどで得たリアルな悩みをもとに、キャリアの悩みを和らげ、これからのキャリアを築いていくための方法を伝授する。

田中 研之輔 著  
キャリアデザイン学部  
キャリアデザイン学科 教授  
出版社：ディスカヴァー・トゥエンティワン  
発行：2022年4月



## 食べものがたりのすすめ 「食」から広がるワークショップ入門

「食べものがたり」は誰もが生まれた時から持っている、食べものにまつわる物語のこと。「食べること」「出すこと」から広がる探究学習の実際を、10を超える実践例から紹介する。ワークショップ実践のコツなどが分かる巻末付録「誰でもできる！ワークショップの始め方」も収録。

湯澤 規子 著  
人間環境学部人間環境学科 教授  
出版社：農山漁村文化協会  
発行：2022年4月

※日外アソシエーツ 図書内容情報BookPlusを参照

## HOSEI 10月号

令和4年10月20日発行  
第49巻第7号（通巻734号）

発行 法政大学 総長室 広報課  
〒102-8160  
東京都千代田区富士見2-17-1  
TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷(株)



## 法政大学生協同組合書籍部より 「読書マラソン」をご存じですか？

法政大学生協では、「読書マラソン」という取り組みを行っています。ご存じでしょうか。

「読書マラソン」とは、「大学4年間で本を100冊読もう！」をスローガンに、市ヶ谷、多摩、小金井の生協店舗で共通して実施している読書推進活動です。本を読んでコメント（感想）を提出すると、専用カードにスタンプが押されます（1冊ごとに1個）。スタンプが10個たると、生協で利用できる書籍割引券をお渡しします。そして、スタンプが100個たると――？

法政大学では今年、3年ぶりにコメント大賞が復活。新たに「総長賞」が創設されました。詳しくは生協店舗や生協ウェブサイトでご確認ください。読書マラソンを通じて、大学生のうちにたくさんの本に触れてみてください。（生協購買書籍部）



生協ウェブサイト

■ Award

2021年度

自由を生き抜く実践知大賞 5

2021年度「自由を生き抜く実践知大賞」には大学憲章を体現するような実践の取り組みとして11件がノミネート。厳正な審査にて、大賞と大学憲章に連なる本学の理念などのキーワードを冠した4賞、オンライン投票による「よき師よき友が選ぶ実践知賞」の計6賞が選ばれました。ここでは、それぞれの受賞の取り組みを順に紹介します。

## 持続可能な未来賞

## オンラインSDGsプラットフォームの開発

(実施団体：デザイン工学部 川久保研究室)



## ノミネート理由・活動概要

現在、世の中が抱えているさまざまな課題を解決し、持続可能な社会を形成していくためにSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取り組みの実践が求められています。SDGsの達成のためには、産官学民のあらゆる行動主体が取り組みを実践することが望ましいのですが、具体的な実践方法が分からないという声も多く上がっています。

そこで、本研究室では、先駆的にSDGsの達成に取り組む行動主体(イノベーターやアーリーアダプター)の実践知を共有することを目的とした「知のプラットフォーム」の開発を通じて、持続可能な社会の構築へ貢献しています。

開発にあたっては、空間や属性などの違い(地理的に距離が離れていた、所属する組織や関係分野の違い)に関わらず活用できることを目指し、コロナ禍による物理的な接触や交流に制限がかかっている昨今の状況も踏まえて、オンライン上で実践知を共有できるようなシステム構築を図っています。

現在稼働しているのは、次の二つのオンラインSDGsプラットフォームです。

### Local SDGs Platform



自治体におけるSDGs達成に向けた取り組みや成功事例を登録・検索・共有



### Platform Clover



あらゆる組織、個人のSDGsに関する取り組みを応援



## 廣瀬克哉総長からの選定理由コメント

先行して整備されたLocal SDGs Platformは全国47都道府県、1741の市区町村におけるSDGsへの取り組み状況を定量的に把握し、自治体の取り組みの特長を可視化する機能を備えています。すでに3000人を超える利用者があり、エビデンスに基づく政策立案の基盤となっています。

産官学民のあらゆる行動主体のSDGsに関する取り組みを共有できるPlatform Cloverも稼働し、文字通り持続可能な社会の未来に貢献する取り組みとして高く評価します。

## 受賞者からの感想(受賞当時)

人々の移動や物理的な交流が難しい状況下であっても、持続可能な社会の構築に向けて着実に歩みを進めるために、「SDGs×DX」をテーマに掲げながら「オンラインSDGsプラットフォーム」を開発してきました。まさに「持続可能な未来」を皆さまと共想、共創するために取り組んできたので、趣旨をくんで賞に選出いただき、大変うれしく思っています。

今後もオンラインSDGsプラットフォームのさらなる改良に努めていきます。

## 受賞者からのメッセージ

国連で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されてから7年近くが経過し、持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた取り組みも盛り上がりを見せてきました。しかし、SDGs達成に向けて取り組む方法が分からないという声も依然として多く存在します。そこで、SDGs達成に向けて取り組む関係者が、オンライン上でそれぞれの取り組み内容を共有したり、協働に向けて意見交換できたりするような場が必要だと考えました。

このような背景を受けて研究室一丸で開発してきたのが「Local SDGs Platform」と「Platform Clover」です。SDGsに関心のある皆さまの「実践知」を発信する場として、活用いただければ幸いです。(川久保研究室一同)

「自由を生き抜く実践知大賞」の各賞の詳細や表彰式の動画は、HOSEI PHRONESIS(<http://phronesis.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。





法政

10月号

第49巻第7号 通巻734号

令和4年10月20日発行

発行 法政大学総長室広報課

# 新、ホセの水!



今年で誕生から12年。  
法政水は次のステージへ向けて  
ラベルデザインを一新しました。  
デザイン工学部の有志が集まり  
ポップで、真面目で、  
なんだかあどけない、  
そんな愛らしさを感じる  
法政水に仕立てました。  
これからも法政水が  
法大生のいつもの水で  
ありますように。

